

普及項目	担い手
漁業種類等	養殖業、漁船漁業
対象魚類	-
対象海域	八代海、天草海

熊本県立天草拓心高等学校マリン校舎と連携した担い手確保の取組み

水産研究センター企画情報室・藤堂 美咲

【背景・目的・目標（指標）】

令和5年（2023年）の県内の漁業者は、5年前の平成30年（2018年）より23.6%減の4,118人で、20年前の平成15年（2003年）と比較すると58.4%減少しており、担い手確保・育成は本県の最重要課題となっている。

令和5年（2023年）3月、熊本県立天草拓心高等学校マリン校舎（以下「天草拓心高校マリン校舎」という。）から、漁業者になる人材育成のため、漁業体験や漁業者による授業等を水産研究センターと連携して実施したい旨、相談があった。

また、一方で、水産庁のスマート水産業推進事業を活用する漁業者はスマート機器の導入にあたり、教育機関での出前授業等の実施が要件の一つとされている。そのため、若い世代に対して漁業や水産物の魅力を発信し、新規就業者の確保につなげることを目的に、天草拓心高校マリン校舎で、漁業者による出前授業を実施することとした。

【普及の内容・特徴】

出前授業は、令和7年（2025年）1月22日及び3月12日の計2回実施した。授業は漁業者が行い、従事している養殖業や漁業の説明とスマート水産業について説明するとともに、実際に使用しているスマート機器や漁具も紹介し、生徒に漁業や最新のスマート水産業について関心を持ってもらえる内容とした。

出前授業の実施に向けては、天草拓心高校マリン校舎と漁業者との日程調整、授業で使用するスライドの作成補助、当日授業に参加できない漁業者への取材、ビデオ撮影、編集作業を実施し、出前授業が円滑に進むようサポートした。

表1 天草拓心高校マリン校舎における出前授業の内容

	養殖業におけるスマート水産業	漁船漁業におけるスマート水産業
日時	令和7年（2025年）1月22日（水） 11時50分～12時40分	令和7年（2025年）3月12日（水） 11時50分～12時40分
場所	天草拓心高校マリン校舎 1階学習室	天草拓心高校マリン校舎 1階会議室
講師	○魚類養殖業者（3名） ○真珠養殖業者（3名） ※熊本大分真珠養殖漁協職員が説明 ○水産研究センター	○漁船漁業者（9名） ○水産研究センター

参 加 者	天草拓心高校マリン校舎 栽培コース 21人	天草拓心高校マリン校舎 海洋航海コース 33人
-------	--------------------------	----------------------------

【成果・活用】

授業では、漁業者がスライドだけでなく、実物のスマート機器や漁具を用いて、授業を行ったことにより、漁業者が直面している問題や危機感、それを改善するスマート化への期待感を漁業者の言葉で直接生徒たちに伝えることができた。また、生徒も興味を持って授業に参加し、積極的に質問する姿が見られた。学校側も生徒たちの反応が非常に良かったと好評であった。未来の漁業者の育成につながるよう、今後も天草拓心高校マリン校舎と連携し、より漁業を体感できる授業を実施していく。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）



図1 養殖業者によるスマート機器を用いた授業



図2 生徒の発言の様子



図3 漁船漁業者による漁具を用いた授業



図4 授業の様子